

秘湯の温泉地で知られる湯西川温泉。その地区の唯一の医療機関として湯西川診療所があります。スタッフは医師、看護師、事務員二人で、一九八一年以来、自治医大卒業の先輩方が代々所長を継ぎ、私は二〇〇四年五月に十二代目の所長として赴任しました。

道具がなくても

診療所の機材は超音波、上部内視鏡、心電図、レントゲンのみ。採血検査の結果は三日後に届き、道具がなくても診療を進めなくてはなりません。

出血を止める電気メスがなくても、何十分も圧迫すれば止血できますし、腹痛でも、問診と臨床経過や超音波検査のみで、ある程度の診断と緊急性の判断



全国リレーエッセイ
栃木県

結婚、長男誕生 家族の故郷

ができます。

また、湯西川は温泉地のため、通常の診療所に比べて観光客の患者さんが多いのが特徴です。

ほとんどの患者さんは温泉で汗をかき、夕食に飲酒をして脱水状態を悪化させ、夕食後の二時ごろに多く受診します。

私は湯西川で結婚し、湯西川で長男が生まれ育ち、私たちが族にとって湯西川は故郷のような土地となりました。

結婚予定の六月六日に平家大祭という盛大なお祭りがありました。平家絵巻行列のお姫様は独身女性の役ですが、午前中に絵巻行列に参加、午後には婚姻届を出す予定にし、その役を妻がやらせていただきました。

へき地診療所の主な患者さんは高齢者であり、車の運転ができない高齢者にとっては、歩いていける距離に診療所がなければなりません。そして医療機関が近くにあることが、何よりも安心なのです。今後のへき地医療を考えるにあたり、住民の「心」を理解した「心」ある政策を切に期待しています。

しかし当日午後、急患のため私は救急車に同乗して鬼怒川へ。婚姻届は妻が一人で提出し、結婚初日から妻に大きな借りを作ってしまった。

四季を実感 感動

私は、この四月から勤務地が替わりましたが、湯西川で一番の感動は、四季を実感できることでした。五月には地元の「釣りの師匠」と溪流釣りに出掛けます。七月には野菜の収穫が始まり、玄關先に食べきれないほどの野菜が積まれます。

秋にはとても良い香りの天然マイタケなどのキノコが採れ、十二月に雪が降り始めると猟友

会が揃ってきた新鮮なクマヤシカ肉にありつけます。二月には盛大ななまくら祭が始まり、四月になり雪が解けると、日に日に新緑が深まっています。

全国各地で活躍する自治医科大卒業の医師たちが、全都道府県をリレーする形式でエッセイを届ける。全国の「地域医療」の最前線にいる自治医大卒業医師 離島で奮闘する医師を描いた「Dr.コト」を思い浮かべ、「Dr.ジチ」と呼ばせてもらう。

(次回予定は大阪府)

寺内 寿彰 22期・1999年卒



2004年度生まれの湯西川の子ども4人。湯西川診療所で、初めての予防注射後に仲良く記念撮影した。自分の長男彰汰(右下)にも自分で注射しました=2005年9月15日

旧栗山村立湯西川診療所

【私の勤務地】旧栗山村の医療機関は、湯西川診療所と役場の隣の国保診療所のみ。入院設備のある病院までは救急車で約40分。三次救急病院までは約90分。緊急時には県の防災ヘリコプターの協力でご要請から三次救急病院まで40分ほどで患者搬送も行える。